



何事にも挑戦

一宮市立富士小学校六年

松本 奈夕



私は、昨年の一宮市スポーツ協会表しう式で小田凱人選手によるトークショーに出席しました。小田選手は、一宮市出身で九才の時に左あしこ関節の骨肉しゅと診断され、その後左あしの一部を切除する手術を行い、障害者となった話を聞きました。今まで私は、障害者の方と接する機会があまり無かったので、とてもショックを受けました。しかし、小田選手は、こうき心あふれ、ポジティブ思考でその苦しい時を乗りこえました。この夏開催しているパリのパラリンピックの選手として出場しています。出場種目である車いすテニスとの出会いは、病院の先生から動画を観せてもらった時「かっこいい」と思ったこうき心から始めたそうです。現在、小田選手の活やくは、みんなを元気にしてくれています。もちろん、私も新聞などで優勝の記事を見つけた度に、自分もがんばろうと勇気をもっています。なので私も、苦しんでいる人、困っている人を助きたい。力になりたい。と思います、この夏休みから、看護師体験、認知症サポーター養成講座、こどもボランティアスクールへ参加する事になりました。

看護師体験で一番印象に残ったのは、患者さん一人一人に声をかける時の対応の仕方です。少し距りのはなれた高れいの患者さんには、大きな声でゆつくりと話しかけて気になげながら、目の前にいる患者さんの治りようもしていました。患者さん達の不安や痛みを理解している姿に、看護師という職業には、治りようだけでなく患者さんの心に寄りそう奥

の深さを感じました。それは、患者さんの人生を尊重し、話しやすい環境や関係性をつくることの大切さ、また、思いやりの心を持ち、信頼される看護師さんの姿を学びました。

認知症サポーター養成講座では、脳のしくみ、認知症の症状や予防、関わり方、ケアに関する内容までさまざまな事を教えていただきました。その中で、認知症当事者の方の体験談を聞く事が出来ました。その方は、十年前に認知症と診断された方ですが、見た目では、認知症かどうか全くわかりません。でも、認知症という事をかくさずに生活をし、周りのサポートを受けながら、毎日を楽しく生活してみえるそうです。認知症は、治らない病気ではあるけれど、進行をおくらせることは出来ません。なので、治りようしていく中でも、ふ通の生活が送れる事も知りました。もちろん、周りのサポートは必要です。おどろかせない。いそがせない。相手がいやだと思いうことは言わない。この三つを守って私も接していきたいです。認知症キッズサポーターとして、認知症について知らない人や間ちがって理解している人に、今回学んだ事を生かして、伝えられたらうれしいです。

これから始まる、こどもボランティアスクールでは、障害者の方とカレを作ったり、車いすインバスケットをしたり、街頭募金のお手伝いが出来るので、とても、楽しみな気持ちと心が引きしまった気持ちでいっぱいです。

今すぐには、人の役に立てる事は少ないかもしれませんが、障害や年れいに関係なく、みんなが笑顔で手を取り合える社会になってほしい。その力に私もなりたいたと強く思いました。